

科目名		担当教員名	学期
企業価値評価論 Corporate Valuation		明田 雅昭	冬期 集中
目的	M&A や MBO の中核技術である企業価値評価の理論と方法を理解する。		
概要	企業価値評価の基本フレームワークであるエンタプライズ DCF 法、エコノミック・プロフィット法、APV 法とこれらの数学的な関係を学んだ後、テキストの方法に準じる形で、過去の業績分析、将来の業績予測、継続価値の算定、資本コストの推定を経て企業価値の算定を学ぶ。同時に、学生ごとに特定の日本企業を選定して、その企業の企業価値を実際に推計し、推計結果について分析と検証を行う。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・エンタプライズ DCF 法など企業価値評価の基本フレームワークの理解 ・資本コストの理解と推定方法の習得 ・会計情報など公開データを用いて自ら企業価値評価が行えるようになる 		
成績評価の基準と方法	宿題（15点）、理解度チェック（35点）、特定企業に関する価値評価レポート（50点）で評価し、100点満点で素点を計算する。なお、講義への貢献が著しい場合、最大で10点の加点を行うことがある。この素点が60点以上の学生を合格者とし、相対評価比率に合致するように、素点順にA、B、C、Dの評価を決定する。素点ベースで60点未満の者は不合格（E評価）とする。		
履修条件	「ファイナンス I」を履修済みで、EXCEL について基本的な操作ができること。平均と標準偏差などの統計に関する基礎知識があることが望ましい。		
授業計画			
第1日	第1章～第5章の要約（この章はテキストに対応する。以下同じ） 第6章「投下資産利益率」 第7章「成長とはなにか」 第8章「企業価値評価のフレームワーク」		
第2日	第9章「財務諸表の組み換え」 第10章「業績の分析」 第11章「将来の業績予測」 特定日本企業分析の準備		
第3日	第12章「継続価値の算定」 第13章「資本コストの推定」		
第4日	理解度チェック（中間テスト） 特定日本企業分析 <ul style="list-style-type: none"> ・非事業用資産 ・財務諸表組替と投下資産、事業 FCF の計算 ・財務比率分析、類似会社比較、利益率の過去分析 		

<p>第 5 日</p>	<p>第 14 章 「企業価値から一株当たり価値へ」 第 15 章 「算定結果の分析」 特定日本企業における算定結果の分析 第 16 章 「マルチプルの活用方法と注意点」 特定日本企業でのマルチプルの実践 第 17 章 「事業単位ごとの企業価値評価」</p>
<p>第 6 日</p>	<p>(上級編) 第 18 章 「税金と企業価値評価」 第 19 章 営業外損益、引当金および準備金」 第 20 章 「リースおよび退職給付債務」 第 21 章 「資産収益率～研究開発費」 第 23 章 「クロスボーダーの企業価値評価」</p>
<p>テキスト 参考書等</p>	<p>都度、講義資料を配布するが、内容は次のテキストに準じたものである。 【テキスト】 ・『企業価値評価第 6 版 (上、下)』マッキンゼー・アンド・カンパニー著 (ダイヤモンド社、2016 年) (Tim Koller, Marc Goedhart, David Wessels "Valuation: Measuring and Managing the Value of Companies", 6th edition, University edition, Wiley Finance, 2015) 【参考書】 ・『企業価値評価ガイドライン (改訂版)』(日本公認会計士協会編日本公認会計士協会出版局、2013 年。Internet 経由でも取得可能) ・『新・企業価値評価』伊藤邦雄著 (日本経済新聞出版社、2014 年)</p>
<p>その他 特記事項</p>	<p>理論の学習と並行してエクセルによる計算の確認を行う。毎回の授業出席が重要である。</p>